

教科用図書調査報告書

甲府市教科用図書採択審議委員会

1 種目 音楽（一般）

2 報告概要

教科書名 出版社名	特 徴
『音楽のおくりもの』 1 2・3上 2・3下 教育出版社	<p>(1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれの学年においても、p 4～5に学習内容が「学びのユニット」としてまとめられ、「音楽を形づくっている要素」と併せて視覚的にわかりやすく示されている。 ・音楽文化との関わりかたが、「私たちのくらしと音楽」として、「中学音楽2・3上」では著作権が、「中学音楽2・3下」ではアウトリーチや教育活動、音楽療法が取り上げられている。 ・音楽を形づくっている要素とその働きに着目して、楽曲をさまざまな角度から学習できる教材が、「どんな特徴があるかな？」として「中学音楽1」と「中学音楽2・3上」に取り上げられている。 ・発展的に興味・関心が広がるように、「中学音楽1」では「『音』ってなあに？」として、「中学音楽2・3上」及び「中学音楽2・3下」では「音の三要素」として、音について扱われている。 ・「何が同じで、何が違う？」というコーナーが各学年で設けられ、各国の声の出し方や合奏の編成、東西の総合芸術などの比較による、思考力や判断力の育成に向けた学習活動が仕組まれている。 <p>(2) 実践的・体験的な学習を行うことができるよう配慮されており、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's sing は3年間を通して扱われており、各学年の中にもいくつか載っており、曲に合った歌い方やフレーズ感のアドバイスになっている。 ・指揮の学習は、2・3上で扱われており、体を動かしながら行う体験活動が取り入れられている。 ・書き込める形式(ワークシート)が3年間を通してたくさんの題材に設定されており、音楽が苦手な生徒にとっても理解しやすく、実践的に学習が進められるようになっている。 ・「何が同じで、何が違う？」では、楽器の構え方や音の出る仕組み、音色の特徴等について考えるワークシートが掲載されている。 ・私たちのくらしと音楽は、2・3上下で学年に合ったテーマで掲載されている。 ・1年生では身近な言葉でのラップ、2・3上ではリズムパターン、2・3下ではCMソングづくりなどが扱われており、興味や関心に応じた内容になっている。 ・P70・71では、音楽著作権について触れており、生徒のこれからの生活に応じて重要な内容が掲載されている。 <p>(3) 「A 表現」と「B 鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・「故郷」の歌唱では、学年が上がるに従って、同声二部合唱から混声三部、混声四部へと発展している。また、全学年の歌唱・鑑賞では「深めてみよう」により、新たに得た知識・技能が他の教材でも関連づけられるような教材配列になっている。 ・全学年において音楽を形づくっている要素が「学びのユニット」にまとめて示されている。1年(P64～65), 2・3上(P64～65)では「どんな特徴があるかな」の中で、要素の変化と、曲想の変化との関連について考え、話し合う学習が設定されている。 ・全学年において、歌唱・創作・鑑賞に「ACTIVE!すすんで学び合おう」が設定されている。キャラクターの吹き出しを参考にしながら、音楽の構成を比較したり、表現を工夫したりすることを学ぶ話し合い活動による学習が設定されている。 ・QRコードで読み取ると「まなびリンク」が開け、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。 <p>(4) 音楽の記号及び用語、図や写真、挿絵等が適切であり、自己のイメージや感情、生活や社会、文化などに関連付けやすいよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表紙見開き2ページを使って、大きな写真を取り入れたことで、曲のもつイメージや季節感を持たせる工夫がしてある。 ・作曲者の自筆譜を載せて、よりリアルに作曲者の存在を感じさせ、記譜の修正部分が実際にあることで、作曲者の曲に対しての想いも感じ取ることができる。 ・3年間を通して、各教材の活動について、マークで「比べてみよう」「深めてみよう」などについてわかりやすく提示している。 ・我が国独自の音楽や世界の国々の音楽について写真や挿絵を入れ、想像を膨らませ具体的に理解するのに適切である。 ・教科書右ページ端に音楽の記号や用語が定位置に提示されている。 ・鑑賞教材では、ページの端に音楽年表が示されている。 ・教科書の巻末に、楽典がまとめられている。 ・キャラクターのつぶやきがあり、表現や鑑賞のヒントになるように配慮されている。
<p>『中学生の音楽』 1 2・3上 2・3下 教育芸術社</p>	<p>(1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭のカラーページが工夫され、伝統文化や世界のさまざまな国の音楽、身近なアーティストの中学時代の音楽との関わり方、合唱曲における詩と音楽の結びつき、芸術性の高い音楽表現などについて、生徒がそれぞれに考えを深められるようになっている。 ・p8～9で学習内容が一望でき、「音楽を形づくっている要素」を含め、それぞれの教材で何を学習するのかがわかりやすくまとめてある。学習前後に学習内容を確認することができ、音楽的な見方・考え方を働かせやすい。また、「音楽を形づくっている要素」については、各教材の見開きの左ページに明示されて意識しながら活動でき、特別にページも設けられて教科書の中の楽曲で具体的な場面と結びつけられながら復習できるようになっている。 ・音楽文化との関わりかたが、「生活や社会の中の音楽」として、段階

的に各学年で取り上げられている。

- ・裏表紙には、中学生が郷土の祭りや芸能に取り組んでいる実際の様子が紹介され、郷土の文化として身近に感じ取りやすく工夫されている。
- ・「2・3下」では、「社会を映し出す音楽」として見方・考え方を働かせやすい。また、「音楽を形づくっている要素」については、各教材の見開きの左ページに明示されて意識しながら活動でき、特別にページも設けられて教科書の中の楽曲で具体的な場面と結びつけられながら復習できるようになっている。
- ・「2・3下」では、「社会を映し出す音楽」として、時代や地域、ジャンルを超えてさまざまな音楽がまとめて紹介され、それまでの音楽の学習が俯瞰できるようになっている。特に、生徒に身近なポピュラー音楽が、「ポピュラー音楽のジャンル（海外編，日本編）」として、さらに詳しく取り上げられ、さまざまな音楽文化に目が向くように工夫されている。

(2) 実践的・体験的な学習を行うことができるよう配慮されており、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。

- ・My Voice は3年間を通して扱われており、各学年の中にもいくつか載っており、その曲や年齢に応じた内容になっている。
- ・指揮の学習では、体を動かしながら行う体験活動が取り入れられており、また、3年間を通して同じ指揮者が登場し、扱う曲に合った内容になっている。
- ・書き込める形式(ワークシート)が3年間を通してたくさんの題材に設定されており、意欲的に学習が進められるようになっている。
- ・「深めよう！音楽」では、音楽の要素を手掛かりとして、聴き取ったことと感じ取ったことなどについて記述するワークシートが掲載されている。
- ・生活や社会の中の音楽が、学年に合ったテーマで掲載されている。2・3下では、中学生にインタビューした内容が載っている。
- ・実際の演奏者からのアドバイスやインタビューが掲載されており、興味や関心に応じた内容になっている。

(3) 「A 表現」と「B 鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。

- ・「ふるさと」の歌唱で、学年が上がるに従って、混声二部合唱から混声三部，混声四部へと発展している。また、「My Voice!」で、豊かな発声について、学年が上がるごとに姿勢や呼吸，息の流れのイメージ，豊かな響きへという配列になっている。
- ・表現では、我が国や郷土の音楽，諸外国の音楽等が扱われている楽曲数が多く，創作，鑑賞の内容がバランスよく構成されている。
- ・鑑賞では，各教材の取り上げ方が学年の実態に合わせて適切に配慮されており，学びやすい配列になっている。また，3年間を通して，我が国の様々な伝統音楽，伝統芸能が取り上げられており，系統性をもって学習できるように配列されている。
- ・全学年において各教材に学習目標が設定されているため，「何を学ぶか」がわかりやすく，生徒がそれを意識することにより主体的に学習に取り組むことができる。

- ・歌唱・鑑賞教材には「深めよう！音楽」、創作教材には「My Melody」が設定され、教科書の手順にそって学習を進めることで、主体的・対話的で深い学びを実現することができる。
- ・全学年において、表現・鑑賞に「深めよう！音楽」が設定されている。キャラクターの吹き出しを参考にしながら、音楽の構成を比較できたり、表現の工夫、曲想の理解について考える話し合い活動をしたりする学習が設定されたりしている。
- ・QRコードから関連したサイトにすぐにアクセスすることができ、自主的な学習にもつなげられる。

(4) 音楽の記号及び用語、図や写真、挿絵等が適切であり、自己のイメージや感情、生活や社会、文化などと関連付けやすいよう配慮されているか。

- ・表紙絵のイラストでは、学校風景が描かれており、生徒に馴染みややすいものとなっている。「音や音楽を光のイメージと重ね合わせて表現し、身の回りに多様な音や音楽があることに気づき、そこから音楽活動を通して音楽のよさや美しさを感じるとともに生活や社会文化などの関わりについて興味・感心が広がっていくことを願っている。」という教科書にこめた願いが書かれている。3年間を通してこの願いをもとにイラストが描かれ、私たちの生活と音や音楽との関わりについてメッセージ性が感じられる。
- ・「音楽を形づくっている要素」を系統的に取り上げ、音楽はさまざまな要素から成り立っていることを示し、生活や社会の中の音楽と関連付けやすい配慮をしている。
- ・「姿勢と呼吸」「歌声作り」を挿絵でわかりやすく説明している。また、声の出る仕組みについても図を使い、ただ単に歌うことだけに視点を向けず、自分たちの声について興味を持たせる工夫をしている。
- ・各教材において学習内容に即した音楽を形づくっている要素（音色・リズム・速度・テクスチャ・強弱・形式・構成）が教科書左端部分に全て示されているため、何がその楽曲を形づくっているのかがわかりやすく学習できる。また、右ページ上端に用語や記号があり、振り返りやすく工夫している。
- ・中1音楽教科書 P43『指揮をするときのポイント』では、WARMING UP として図に楕円と最終的に上下の動きになる基本的な指揮法の図を載せ、2拍子・3拍子・4拍子の振り方を見やすく示している。
- ・鑑賞曲について外国の作曲者が生存していた頃は、日本のいつの時代なのか、いつ頃その曲を作曲していたのかイメージしやすく、年表で時系列がわかりやすく示している。
例) 中1音楽教科書 P46『ビバルディ』・P50『シューベルト』
- ・教科書の裏表紙に、郷土の祭りや芸能の写真が掲載されていて、我が国独自の音楽や文化に親しみを持てるよう配慮している。
- ・さまざまなジャンルの作品を紹介する写真や文章が掲載されている。